



研究主題

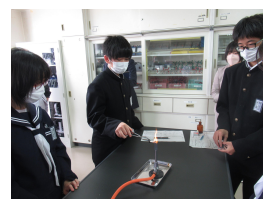
『カリキュラム・マネジメントを 活かした主体的な学びの創造』

～プロジェクト型学習の地域展開と学習評価を明確にした
課題発見・解決学習の開発～



令和6年度尾道版「学びの変革」推進事業
尾道市立日比崎中学校
公開研究会

尾道市立日比崎中学校 実践発表
研究主任 風盛文哉



本日は研究授業へのご参加ありがとうございました。私研究主任の風盛が本校の実践を発表します。よろしくお願いします。

はじめに、本校の研究主題をのせています。発表では、この主題に関わる実践を紹介していきたいと思います。

発表の 流れ

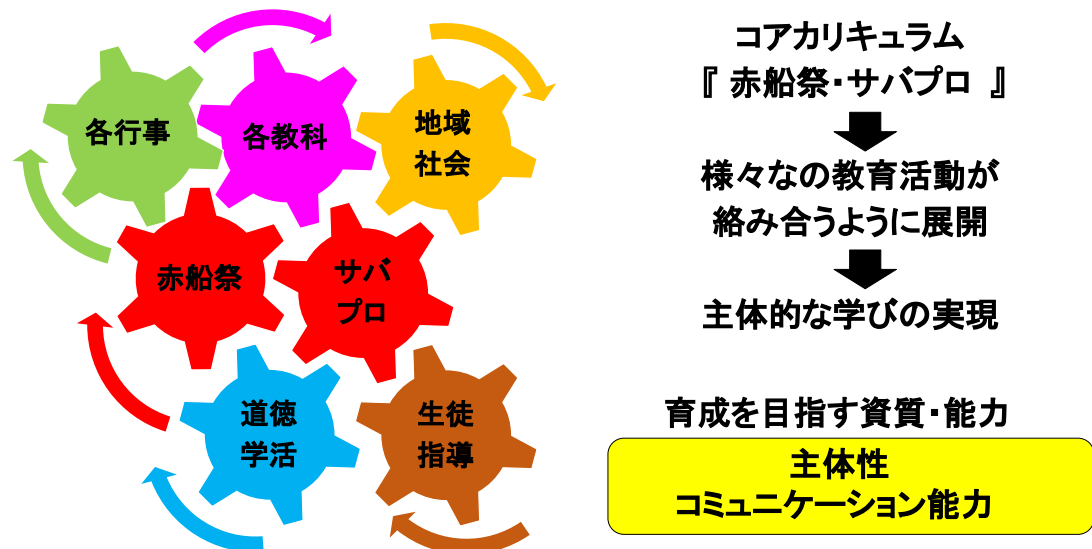
- 1 本校の考えるカリキュラム・マネジメント
- 2 教育実践の具体
(カリキュラム・マネジメント)
- 3 授業研究
- 4 成果・今後

本日の発表は,このような流れで行っていきます。

1 研究主題と カリキュラム・マネジメント

まずは、本校の研究主題にもある、カリキュラム・マネジメントについてです。

1 本校の考えるカリキュラム・マネジメント



ここで示すのは、本校の考えているカリキュラム・マネジメントについてです。本校では、カリキュラム・マネジメントを次のような歯車の動きで考えて教育活動を行っています。

どこか1つの歯車が回ることによって、他の歯車が回り、教育活動が絡み合うイメージです。例えば、道徳科の授業を単独の学びとするのではなく、生徒指導や各教科とリンクした学びを行うという意味です。

また、この歯車の位置にも意味を持たせています。

赤い歯車に注目してください。この赤船祭とサバプロは本校のコアカリキュラムに設定し、中心に位置づけています。年間を通じてこの2つを核として、各教科の授業や行事が絡み合うように進めています。

このような取り組みが、主体的な学びを生み出し、本校で目指す資質・能力である主体性、コミュニケーション能力が高まると考えています。

2 教育実践の具体 (カリキュラム・マネジメント)

次に、教育実践の具体について紹介します。複数の歯車が絡み合うカリキュラム・マネジメントに特化して説明していきます。

2 コアカリキュラムのコラボ

赤船祭 (学校行事)	赤船祭 サバプロ サバプロ (総合的な学習の時間)
・体育競技の部(1学期) ・文化的発表の部(2学期) ・生徒会執行部による運営 	・防災学習 ・学習内容をリーダーが企画 ・理論や体験の学習 

縦割り集団 & 生徒主体 & 地域連携

まず、コアカリキュラムに設定している赤船祭とサバプロです。

赤船祭は学校行事で、一般的には体育大会や文化祭と呼ばれているものです。本校では、この2つの体育大会や文化祭を別々のものではなく、赤船祭という一つの単元で捉え、生徒会執行部が運営していくことで、系統性のある取組にしています。

右側はサバプロです。これは総合的な学習の時間で防災学習をテーマにした取組です。学習課題や計画をリーダーが設定し、理論や体験学習を行い、プロジェクト型学習の流れで進めています。

赤船祭とサバプロでは、同じ縦割り集団で課題に取り組み、どちらも生徒主体と地域連携を意識して取り組んでいます。

3 道徳と赤船祭のコラボ



○赤船祭と関連づく内容項目

- 1学年:個性の伸長・お互いの良さに気づき伸ばす
- 2学年:よりよい学校生活の充実
- 3学年:日比崎中学校の伝統の継承

○広島大学 宮里智恵 教授を招聘

- ・ワークシートを活用した授業づくり
- ・心情曲線を用いた発問の精選

○授業実践

- ・全クラスで、道徳参観日で授業予定
- ・12月に研究授業(宮里先生招聘) **NEW**



次は、道徳と赤船祭の歯車を紹介します。道徳では、通常の指導に加え、赤船祭と関連づく内容項目を学習しました。

道徳推進教師が中心となって、学年に合わせて、内容項目を考え、赤船祭の体験と重ね合わせて自らを見つめていきました。

また、日々の授業力向上を目指して、広島大学の宮里ともえ教授を招聘し、継続的にご指導をいただいています。

内容としては、ワークシートを活用した授業づくり講座、心情曲線を用いた発問づくりを学んでいます。

そして、授業実践の場として、道徳参観日で授業公開を計画しています。

また、今年度は新たに、12月に宮里先生を招聘して、道徳科の授業研究を行う予定です。

4 学活と赤船祭のコラボ

○議長団の運営による話し合い活動(5年目)

- ・学級目標の設定
- ・個人目標の設定
- ・赤船祭に向けて など



授業での話し合い
活動の土台



○9/18(水)広島県教育センター専門講座会場 **NEW**



次は学活と赤船祭の歯車についてです。本校では、広島県特別活動県大会の会場となったことを皮切りに、5年間、議長団の運営による話し合い活動にこれまで取り組んできました。

学級目標の設定や赤船祭に向けての取組など、集団の合意形成や個人の意思決定をするために話し合い活動を計画的に実施しています。

話し合い活動では、議長団を中心に進め、行事など様々なテーマを扱います。

こうした5年間の取り組みによって、日々の授業での話し合いやグループ活動も主体的に取り組めるようになってきました。

また、先日、9/18(水)には広島県教育センター専門講座として、本校2年生の話し合い活動を公開し、協議を通して、授業実践を深めることができました。

5 話し合い活動の進め方

道徳
学活

○話し合いの型 ver.日比崎

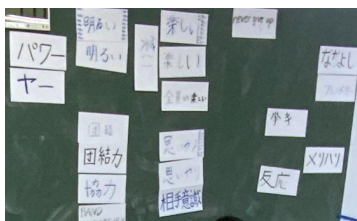
- ・メロンカード, オレンジカード
- ・ホワイトボード, 短冊, chromebook



合意
形成



意思
決定



こうした話し合い活動を進める中で、話し合いの型 日比崎バージョンが確立してきました。

合意形成の流れを示すメロンカードや意思決定の流れを示すオレンジカードです。ワークシートの作り方や進め方など型が確立することで、どの学年でも効果的な話し合い活動を進めることができるようになりました。

また、これまでの授業研究で培った学習ツールである、ホワイトボードや短冊、chromebookなどを積極的に活用しています。

6 生徒指導と赤船祭 積極的な生徒指導

○赤船祭と連動した委員会活動

- ・靴箱リレー
- ・生徒会発表 → 生徒会選挙
- ・広報部の掲示物

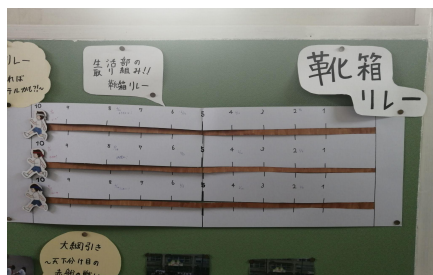
○生徒が運営する行事

11名立候補
から3名選出



生徒
指導

赤船
祭



次は、生徒指導の歯車についてです。ここでいう生徒指導とは積極的な生徒指導を考えています。

このページの写真は、赤船祭と連動した委員会活動や生徒が運営する様々な行事です。

日頃から生徒が主体となる種まきをすることで、自尊感情が高まり、問題行動の予防になるとも考えています。

また、昨年度、秋の赤船祭後に行った、3名の生徒会役員を決める生徒会選挙では、11人が立候補し、非常に高倍率の選挙になりました。

生徒会リーダーが学校の憧れになっていることを実感しました。

7 地域社会との連携

地域
社会

活動

○マナー講座
尾道商業高校と連携

○尾道調べ
・各事業所の訪問インタビュー

○平和学習
戦争被害者からの講義

○サバプロ
・尾道市防災課からリーダー指導



次は地域社会と様々な活動の歯車です。

様々な教育活動で地域の協力をいただきながら進めています。今年度は、尾道商業高校と連携したマナー講座や、尾道市内の各事業所の訪問・インタビュー活動を行いました。

また、下の写真には、サバプロでの尾道市防災課様からのご指導の様子、夏休みに行った平和学習での戦争被害者からの講義の様子をのせています。

地域と連携することで、より専門的な教育活動を行うことができ、開かれた学校づくりにつながると考えています。

今後も、尾道東高校や日東電工の出前授業を計画しています。

3 授業研究

次は, 授業研究についてです。

8 問いづくり



○広島大学 永田 忠道 教授を招聘

- ・各教員が「単元構想シート」を作成し、内容を交流
- ・本質的な問いや単元を貫く問いについて指導助言

問いの
精選, 吟味

【単元構想シート】所属・作成者（ ）

「本質的な問い」（カリキュラムを構成する質問の三つの階層）の考え方を参考に、「単元を貫く問い」を立てて、単元計画を構想する準備をしましょう。

校種・学年 教科等 単元（題材）名

① 本質的な問い （何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

② 単元を貫く問い （単元を通して考え深めていく「問い」）

③ 個別の問い （単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等）



本校では、令和6年度版学びの変革推進事業の流れを踏まえ、問いに関わる研究を行っています。本日ご指導・ご講演をいただく広島大学永田ただみち教授を招聘し、7月に理論研修を行いました。単元構想シートを1人1枚作成し、各教員が自分の教科単元でシートを作成し、本質的な問い、単元を貫く問い、個別の問いを明らかにしました。今年度は、特に、ねらい、学習課題、まとめがブレずに一貫性のあるものになっているのに注目し、問いを吟味・精選することに力を入れました。研修によって、問いの果たす役割、重要性について学ぶことができました。本指導案では、単元計画にこれらの問いを記しています。

9 小中連携・授業交流週間

各
教科

○全国学力・学習状況調査の分析

- ・日比崎小学校と実施
- ・実態把握や課題を見つけ、指導改善



○授業交流週間の実施

- ・全職員が授業を見せあい、気づきや助言を行う。



ここでは、授業研究の取組として行った。小中連携・授業交流週間について紹介します。

今年度は、今日お越しいただいている、日比崎小学校の職員と連携し、今年度実施した全国学力・学習状況調査の分析を行いました。左の写真はそのときの様子です。

国語・数学・質問紙のグループに分かれて分析を行い、中学校校区の実態把握を行い、課題を見つけ、改題に対する指導改善について話し合いました。

また、右に示すのは、今年度新たに行った授業交流週間の様子です。授業を行う全職員が授業を公開し、お互いに授業を見せあい、授業への気づきや助言を行うことをしました。

計画的に授業を公開する、見る機会をつくることで、職員同士で学び合ういい場となりました。

10 公開研究会までの歩み

各
教科

○指導案の見直し, バージョンアップ
教師一生徒のやりとり, 活動の意図を記述

○シミュレーション授業の実施
全職員が授業を行い, お互いにアドバイス

○ねらい, 学習課題, まとめの吟味, 修正

①ベース作り
初任研師範授業
での授業づくり



②授業の具体化
指導案検討
シミュレーション授業



③個々の授業実践
公開研究会

次は, 本日の公開研究会までの歩みです。公開研究会が, 今後の日比崎中学校の授業のプラスになることをねらいとして, 次の3点を意識して, 準備を進めてきました。

まずは, 今年度指導案の見直しとバージョンアップです。本日の指導案では, 単元計画に毎時間のねらいと学習課題を記述しています。また, 本指導案では, 全ての職員が, 教師と生徒のやりとりや活動の意図を細かく記述することに力を入れています。指導案を丁寧に細かく記録することで, 単元や授業の見通しが見え, 生徒の反応を予想した, 発問や活動が設定できるようになりました。

次に, シミュレーション授業の実施です。本日公開した全ての授業において, 指導案検討を行い, 職員を生徒役として授業を行うシミュレーション授業を実施しています。経験年数や教科関係なく意見を言い合い, 授業をアドバイスすることで, 発問や活動を練り上げ, 改善案を出し合うことができました。

さらに, ねらい, 学習課題, まとめの精選です。それぞれの果たす意味を大切に, 生徒の意欲を引き立て, スムーズな思考につながるように何度も吟味修正を行いました。

公開研究会までの流れは下に示しました。

まず, 1つ目はベース作りです。今年度私自身が春に, 東部教育事務所の師範授業をさせていただく機会をいただき, その授業研究で行った単元開発, 指導案をベースとしました。ベース作りにあたっては, 尾道市教育委員会井原アドバイザー様から

もご指導をいただいています。ありがとうございました。

2つめは、授業のイメージ化です。夏休みを使って、指導案検討やシミュレーション授業を繰り返し行い、本日の授業をより具体化していくことに力を入れました。そうして、出来上がった授業を、本日の公開研究会で実施しました。10名という多くの職員が、共通認識を持って単元開発を行い、授業研究を行うことで、学校全体の授業力の向上につながると考えています。

4 成果と今後

最後に成果と今後についてです。

11 全国学力・学習状況調査 令和6年度

	全国	広島県	自校	県差
国語	58.1	58	63	+5.0
数学	52.5	52	56	+4.0

国語・数学で全国と県の平均を上回った

課題 複数の情報を関連付けること

根拠をもとに論理的に表現すること

次は成果についてです。今年度実施の全国学力・学習状況調査の教科に関わる部分についてです。

国語, 数学, 理科において, 全国, 県, 市の平均を上回り, 学力についても高い水準になることが見とれます。

R4

国語+1.0

数学+6.0

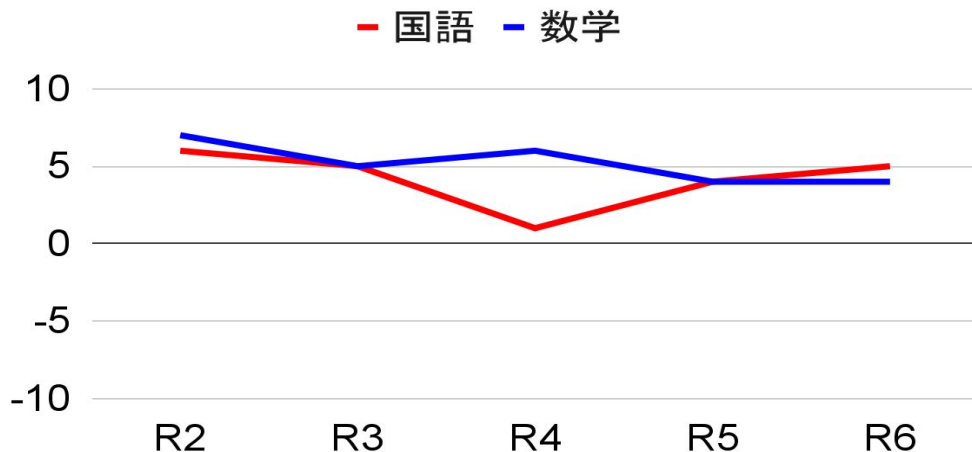
R5

国語+4.0

数学+4.0

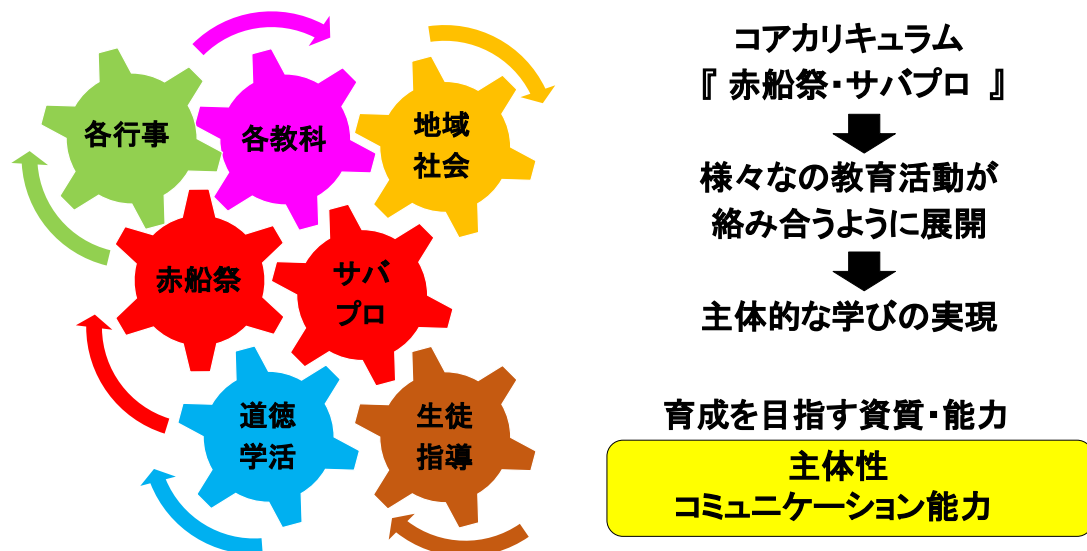
12 成果 全国学力・学習状況調査 経年変化

全国学力学習状況調査



また、例年確実に実施される国語・数学について、経年変化を調べました。
このグラフは、全国学力・学習状況調査の過去5年間の推移になります。
毎年、全国・県の平均を上回っていることが分かります。
しかしながら、自治体平均を上回る結果は維持しているものの、大きな伸びは見られていません。
この壁を乗り越えるため、学校全体として、様々な活動の効果を検証・改善し、新たな教育研究を行っていきたいと考えています。

おわりに 本校の考えるカリキュラムマネジメント



最後に、冒頭でも述べたカリキュラム・マネジメントの歯車を示して、終わります。
今後もカリキュラム・マネジメントを進め、主体的な学びの創造を目指していきます。
お聞きいただき、ありがとうございました。